

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

出雲市立大津幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
			達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価基準により段階評価を行う。	評価基準により段階評価を行う。	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○教育目標に基づいて指導計画を作成し、保育を実践している。反省、考察を行いながら学級経営に努めている。 ○保護者、教職員アンケートでは、ほぼA、B評価を占めており、各担当が目指す幼児像に向け、園の特色を生かした保育実践に努めていることが読み取れる。	4	4	・教育目標を全職員で共通理解し、学級目標に基づいた教材研究や環境の構成をする等、育てたい姿に向けてねらいを明確にもった保育の展開に努める。 ・今後も反省、評価、改善のサイクルを重ね、よりよい学級経営に努める。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	○定期的に「保育記録会」「子どもを語る会」を行い、多面的な幼児理解に努めている。補助教諭との連携を密にし、共通理解しながら学級経営を行っている。一方で経験年数による課題もあり、職員研修の機会を設け、幼児の発達理解を深め、主体性や意欲を引き出す保育の工夫が必要であると考えている。	3	3	・保育記録会や子どもを語る会などを通して、一人一人の幼児理解を深め、共通理解のもとに保育を行っていく。 ・年中児発達事業、個人懇談、保護者からの聞き取りなど、保護者と連携を図り、一人一人の課題を捉え、成長を促していく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○特別な支援を必要とする幼児の実態把握に努め、園全体で共通理解を図り、特性に応じた支援を工夫している。 ○家庭や関係機関、就学先との連携を重視し、幼児の特性理解や支援のあり方を共に考え、実践に活かしている。また、必要に応じて保護者懇談の機会を設け、保護者の思いを受け止め、支援の方向性を共有できるように努めている。	3	3	・保護者の思いを受け止め、専門機関、関係機関、就学先との連携を図りながら、よりよい支援について探っていく。 ・特別な支援を要する幼児へ支援について、専門性を深めていけるよう職員の学びの機会を設けていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○人権・同和教育を保育の根底に据え、一人一人が安心感をもって自己発揮し、思いやりの心が育つよう保育実践に努めている。 ○今年度、出雲市同和教育研究指定事業大津地区発表会で紙面発表を行った。保育実践や職員研修を通して、職員の人権意識を磨く機会となった。	4	4	・幼児一人一人の人権を尊重し、互いに認め合い、育ち合えるような温かい集団づくりをしていく。 ・園内外の研修に参加し、教職員自身の人権意識を磨く努力をする。また、職員間で伝達し合い共通理解を図っていく。園だよりや研修会などを通して、保護者への啓発にも努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○担任全員が4月から大津幼稚園に着任した。行事を行うにあたり、ねらいを明確にし、幼児の育ちや生活の連続性、保育の充実につながるよう努めた。当日の様子だけでなく、取組の過程を通じた発達の姿、成長等を保護者に伝え、園行事への理解を深めてもらうよう努めた。保護者・教職員アンケート共にA・B評価で100%であり、理解が得られていると読み取れる。	4	4	・今後も、行事が幼児の育ちにとって有意義な経験となるよう、ねらいをもつて取り組んでいく。 ・保護者の感想等から、反省・改善すべきところは工夫していく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○校区内校長・園長会、保幼小連絡会、保幼小交流の日、保幼小交流会を通し、園児の実態や様子について情報交換をしている。また、大津地区の取組により、人権・同和教育を共通の観点とすることで共通理解が図りやすくなっている。 ○東ブロック交流保育に小学校、保育園からも参加してもらい、架け橋期の教育について理解を深めることができた。	4	4	・今後も交流や意見交換を行い、幼児・児童の実態や指導のあり方などについて互いの理解を深め、小学校への滑らかな接続に努める。 ・大津地区の保育園との連携を深めていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○年3回の個人懇談、学級便りの発行、連絡帳活用や送迎時の対応など細やかな連携に努めている。今年度からブログも始め、タイムリーに園生活の様子を発信するようにした。しかし、伝わりにくいと感じる保護者もいることを踏まえ、一層の工夫が必要であると考え。 ○地域の人材活用、地域行事への参加、地域の方との交流等を通して、地域との連携を積極的に図っている。 ○未就園児教室は年8回開催し、情報発信の機会となるよう努めている。	3	4	・委員から、発信の工夫は十分にされているので、保護者がどんな情報を求めているのか考慮しながら伝えるとよいという意見があった。また、園から全て情報提供するだけでなく、家庭での会話を増やしていくことも大切だという意見もあった。これらを踏まえ、発信する内容を考慮すると共に、親子関係が深まるような工夫に努めていきたい。 ・今後も幼稚園の役割を踏まえ、園・家庭・地域との連携を図りながら、地域に開かれた幼稚園として取り組んでいきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○各自が必要な研修会に積極的に参加し自己研鑽に努めた。研修内容を園内で共有し、保育や執務に活かすようにしている。 ○今年度、出雲市幼稚園教育研究会東ブロック研究保育を行い、市内の幼稚園、大津地区の保育園や小学校の先生に保育を公開した。指導助言や様々な意見をいただいたことは大きな学びとなった。	4	4	・研修を通して園全体の保育の質や職員の資質向上に努める。 ・全職員が参加しやすく、互いに学び合える機会や内容について、一層工夫していく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○園務分掌における各担当者は、早めの計画、全職員への周知を図るよう努め、協力・連携を図りながら業務の遂行に努めている。大津幼稚園1年目の職員も多く、見通しをもつことが難しい面もあり、計画通りに園務を遂行できない時期もあった。より一層声を掛け合っていくように心掛けている	3	3	・園長・教頭がリーダーシップをとりながら、職員同士が協力して園務を遂行できるような体制作りを努める。協力し合える教職員集団となるよう、日頃からのコミュニケーションを大切にしていく。 ・計画的な園務の執行に努めると共に、業務の効率化も検討していく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○今年度は、大津地区交通安全対策協議会、中国JRバス、出雲高等自動車学校、交通安全係の皆さんの協力を得て、交通安全教室を例年より多く行った。また、危機管理マニュアルを基に各種災害を想定した避難訓練、防犯教室、職員対象の不審者対応訓練、救命研修も行い、全職員が安全管理・危機管理についての意識やスキルを高める研修を行った。衛生面、保健面の指導については、看護師が中心となって進めた。マニュアルを基に職員間で共通理解を図りながら感染防止、事故防止に努めた。	4	4	・今後もいろいろな状況を想定した避難訓練を行い、職員の危機管理意識を高め、臨機応変な対応力を身に付けていく。 ・地域機関と連携を図りながら、道路・街灯・時計台などの園周辺の環境を含めた安全管理に努める。保護者にも情報発信し、安心感をもってもらえるよう努める。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月「安全の日」を設け、チェック表を基に施設、設備の点検を行い、不具合が見つかった場合は早急に対応し、修繕に努めている。 ○園地、園舎、遊具等の管理について尽力しているが、施設面で老朽化している箇所もある。教育施設課、対応業者と連携を図り、計画的に修繕していく必要がある。	3	3	・日々の観察や毎月の安全点検を細やかにし、危険箇所については必要な改善を図り、速やかに対応していく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する